

CALCON 2016 に参加して

2016年7月31日から8月4日にかけて、アメリカ合衆国ハワイ州オアフ島にて、2016年度第71回 The North American Calorimetry Conference (CALCON 2016) が開催されました。71回目を迎えた今回の学会は、日本熱測定学会とのジョイントセッションとして第6回 International Symposium on the New Frontiers of Thermal Studies of Materials (ISNFTSM)との共催となりました。CALCON 2016において、当センター長の中澤康浩教授が James J. Christensen Memorial Award を受賞されました。詳細は別稿に譲ります。他に当センターからは筆者(東)が、大阪大学大学院理学研究科物性物理化学研究室からは今城周作氏が参加し、口頭発表を行いました。

発表は受賞講演6件、招待講演6件、口頭発表61件、ポスター発表23件がありました。セッションは溶液系、高分子、ナノ物性、生体物質、マテリアル科学、イオン液体、固体物理と多岐に渡るジャンルで行われました。熱測定の応用範囲の広さを再認識させてくれました。

学会は日米の熱測定学会での共催の甲斐もあり、多くの研究者が参加されていました。日本からも筆者らだけでなく、多くの研究者が参加されていました。議論は例年通り白熱したものでしたが、現地の気候のためかどこか和やかな雰囲気で進行していたようにも感じました。休憩中や食事会も賑やかで、多くの参加者が積極的に意見交換を行っていました。

現地では先述した今城氏と、ウクライナから参加された Maksym S. Barabashko 博士と相部屋になりました。Barabashko 博士は非常に真面目かつ精力的な研究者で、滞在中は彼の研究であるナノチューブ分子の間隙に閉じ込められた希ガスの低温における振舞いについて熱く語っていました。筆者と今城氏も自分たちの研究内容を議論し、お互いに良い刺激になりました。そのため滞在中は毎日英語で互いの研究を議論した他に、型にはまった英語だけでなく、身振り手振りを駆使してコミュニケーションをとることを学びました。Barabashko 博士は好奇心が旺盛な方だったので、自由時間では共に Turtle Bay Resort 近辺を散策して穏やかな時間を過ごしました。

(東 信晃)



CALCON 2016 会場の Turtle Bay Resort にて、3日目プログラム。



Banquet 中, 故阿竹徹先生を偲ぶ会にて. 城所俊一教授(現日本熱測定学会会長, 長岡技術科学大学大学院)のスピーチ.